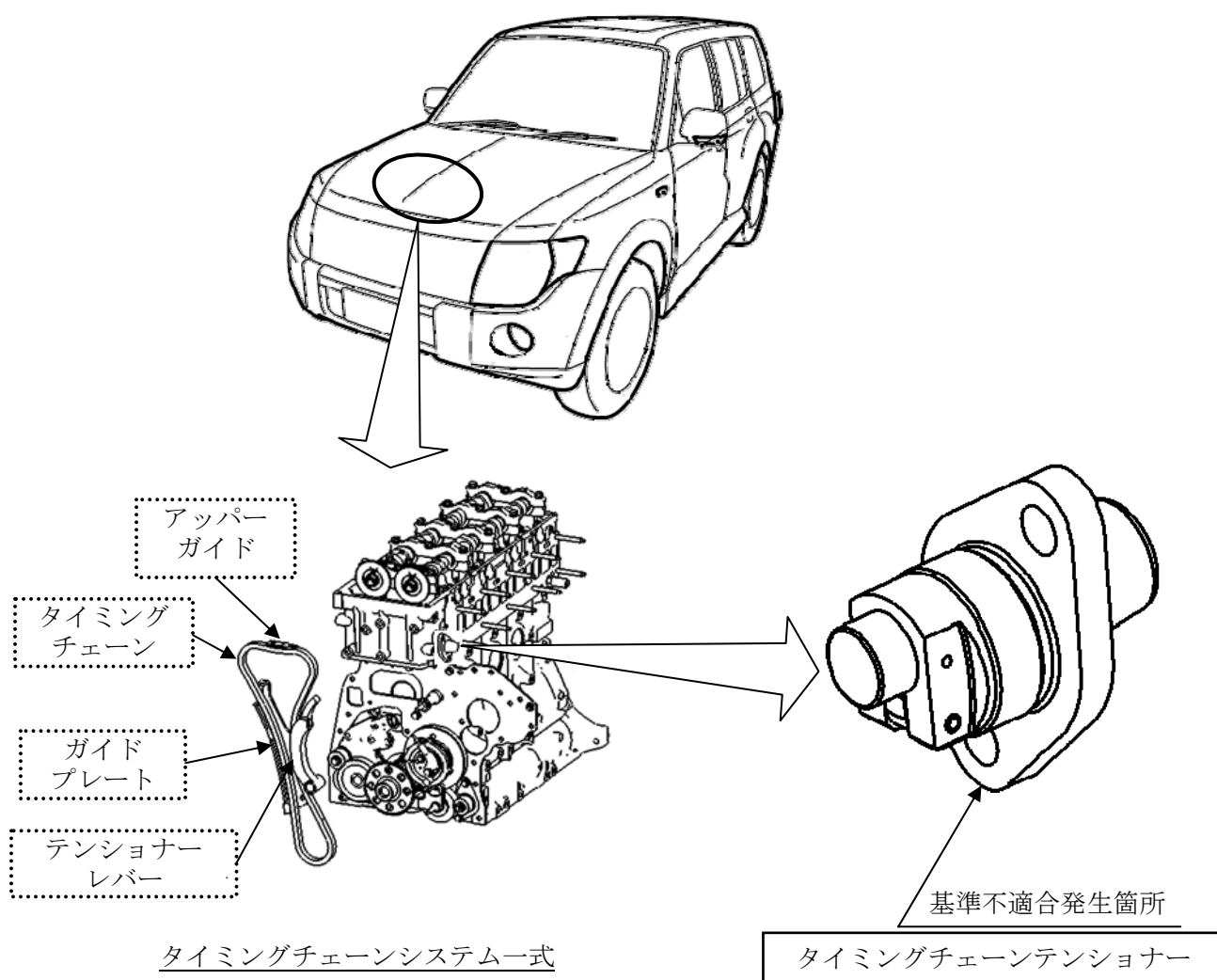


改善箇所説明図 ①



タイミングチェーンテンショナーの張力調整機構の構造が不適切なため、タイミングチェーンにかかる張力が不足して、エンジン駆動中に異音が発生することがある。そのため、そのままの状態で使用を続けると、タイミングチェーンが破損し、最悪の場合、エンストして再始動できなくなるおそれがある。

改善の内容

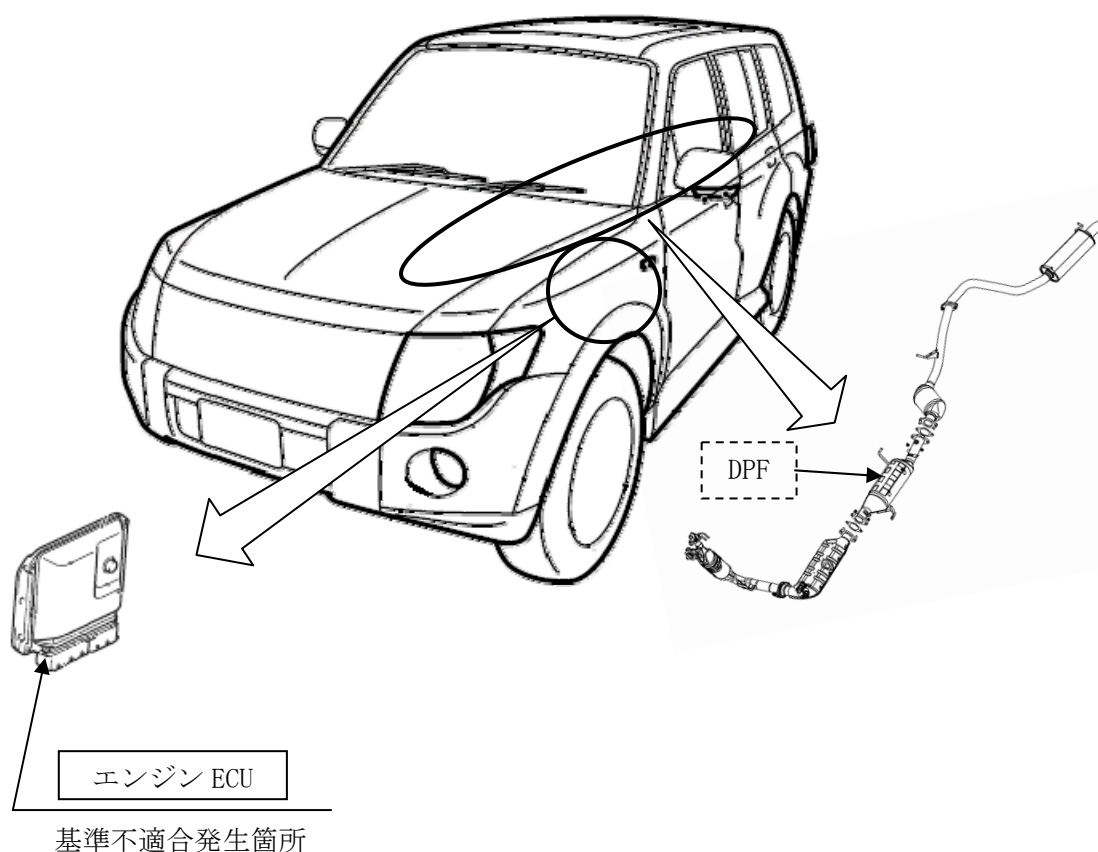
全車両、タイミングチェーンテンショナーを対策品と交換する。また、タイミングチェーンシステムを点検し、損傷が確認された場合は、システム一式を新品と交換する。

注：図中の 内は、点検および交換する部品を示す。

図中の 内は、タイミングチェーンシステムに損傷があった場合に交換する部品を示す。

識別：助手席側ドアのローワーヒンジにあるピン頭部に白または黄色のペイントを塗布する。

改善箇所説明図 ②



エンジン ECU の燃料噴射プログラムが不適切なため、燃料噴射の学習機能が正常に機能しないことがある。そのため、DPF（ディーゼル粒子状物質除去装置）に過剰に煤が堆積し、そのままの状態で使用を続けると、最悪の場合、エンストして再始動できなくなるおそれがある。

改善の内容

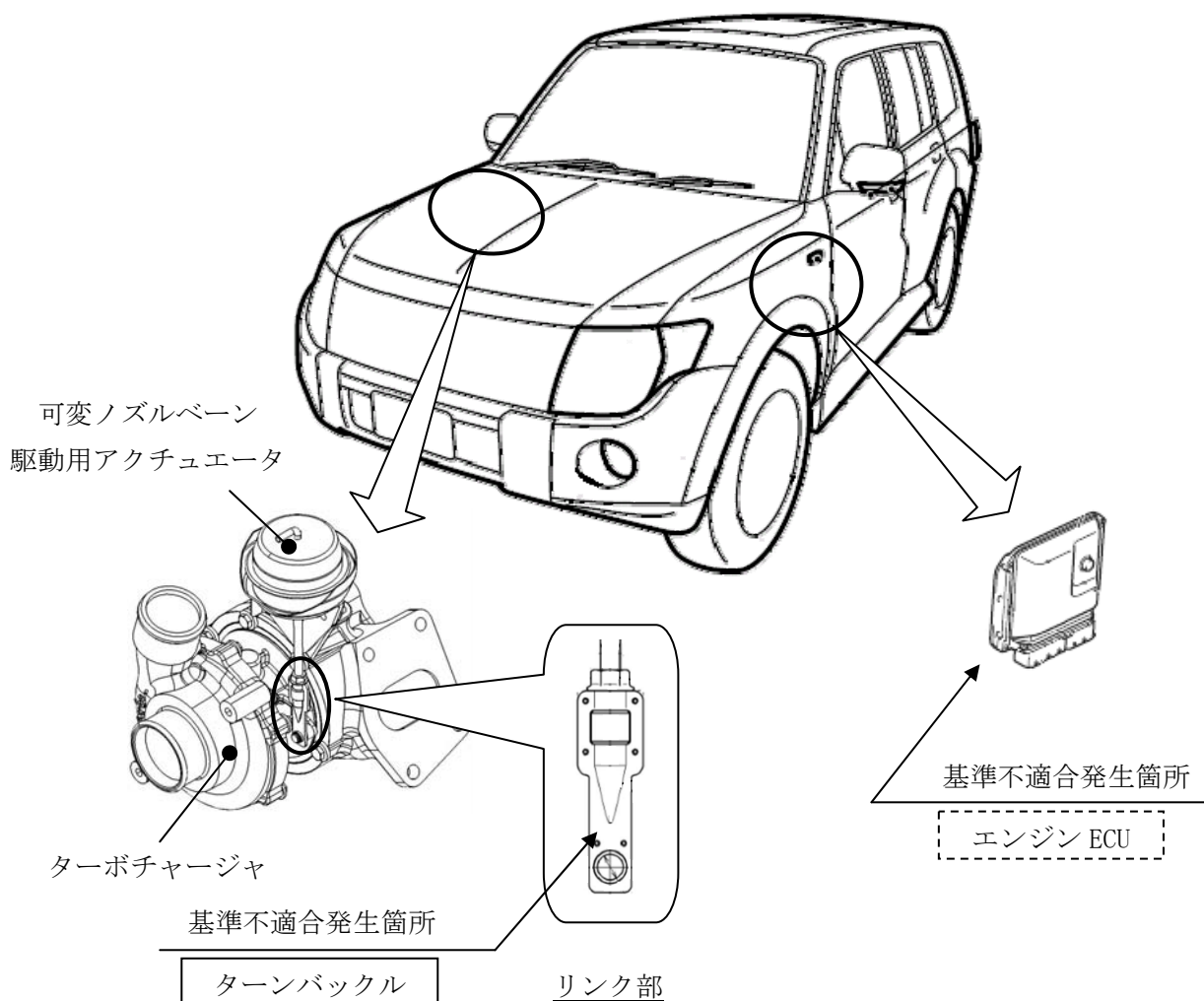
エンジン ECU のプログラムを対策品に書き替え、燃料噴射学習を実施するとともに、DPF を点検し、煤が過剰堆積しているものは新品に交換する。また、メンテナンスノートの「コモンレール噴射システム噴射量補正」点検整備方式のページにシールを貼り付け、正しい記載内容に訂正する。なお、エンジン ECU が対策済みの車両は、メンテナンスノートの訂正のみを実施する。

注：図中の 内は、プログラムを書き替える部品を示す。

は、点検結果により交換する部品を示す。

識別：助手席側ドアのローワーヒンジにあるピン頭部に白または黄色ペイントを塗布する。

改善箇所説明図③



ターボチャージャの可変ノズルベーンを駆動するリンク部の耐食性が不十分なため、当該リンク部が発錆して固着する場合があります。そのため、エンジン ECU が過給圧異常を検出してエンジン警告灯が点灯し、出力制限を伴うフェールセーフモードに入るとともに、排気ガス濃度が基準値を超過するおそれがある。

改善の内容

全車両、ターボチャージャの可変ノズルベーンを駆動するリンク部のターンバックルを対策品と交換し、エンジン ECU のプログラムを対策品に書き替える。

注：図中の 内は、交換する部品を示す。

図中の 内は、プログラムを書き替える部品を示す。

識別：助手席側ドアのローワーヒンジにあるピン頭部に白または黄色ペイントを塗布する。